

くすの木タイム学習指導案

令和3年1月22日（金） 第4学年3組（6年3組教室） 指導者 関口 雄基

【単 元】 笑顔広がれ！ぼくらのハッピームービー（目指せ！幸せ届ける笑学生^{しょうがくせい}）

考 察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	動画や動画に関わる人々の特徴・よさ、それらを得るのに必要な技能	動画や動画に関わる人々の特徴・よさ等を関連付けながら課題を見だし、解決方法を導き実践する力	動画や動画に関わる人々と関わることへの意欲や自信を高めながら、自ら探究する態度
児童の実態	- 校内への動画発表会をして、動画や動画に関わる人々の特徴・よさを得てきている。 - 高齢者の方を楽しませることと自分たちの動画の特徴・よさとの関係に気付いていない。	- 校内の人を楽しませるという課題に対して、テーマや撮影、編集の仕方と相手の反応と結び付けながら解決策を導いてきている。 - 高齢者の方を楽しませる課題に対して、多様な角度から見た根拠のある解決方法を導いていない。	- 校内の人を楽しませるという課題に対して、テーマや撮影、編集の仕方等の解決方法を自己・集団決定し、課題の解決への意欲と自信をもてるようになってきている。 - 高齢者の方を楽しませるという課題の解決への意欲と自信をまだもっていない。
価値	- YouTubeをはじめとした様々な動画配信サービスは、多数の人に利用されており、スマートフォンやタブレット、PC等で動画を作成する人も多い。作成者は、視聴者の反応を想像してテーマを考えたり、構図やカメラワークなどの動画の撮影の仕方や音楽や字幕、動画同士のつなぎ方などの編集の仕方を工夫したりして、自らの個性を発揮し、視聴者の心を惹き付けることを大切にしている。動画を通して、テーマや撮影、編集について考えていくことは、人を楽しませるには、相手の気持ちや立場を想像することや自分たちらしさを発揮することが大切さであるといった、人との関わり方についての概念的な理解につながる。SNS等が発達し、相手と直接向き合うことが希薄になっている現代において、このような学習を行うことで、相手の気持ちや立場を想像し、相手と関わることを楽しもうとする自分の生き方を広げていくことができる。 - 高齢者の方を楽しませるために、これまでに得た動画の特徴・よさと相手の気持ちや立場とのつながりに気づき、自分たちの動画の特徴・よさを新たにできる。	高齢者の方を楽しませることにについて追究することで、「これまでに気付いた動画の魅力」や「人々のニーズ」、「自分たちならではのこと」等の多様な角度から分析的に動画の発信方法を考えることができる。	- これまでの校内への動画発表会の成果に自信をもち、進んで校外への動画の発信の仕方を考えることができる。 - 動画を通して相手に楽しんで欲しいという思いをもつことができる。
見方・考え方	動画作りに関わる広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、動画やそれに関わる人についての課題を探究し、自分と動画の視聴者との関わり方を問い続けること。		
今後の学習	次の小単元「これまでの取組を振り返ろう」において、1年間の人を楽しませるための取組を振り返り、地域への貢献の成果と自己の成長を実感する学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	人を楽しませるために、相手の気持ちや立場を想像したり、自分たちらしさを発揮したりして動画を作成することの大切さと難しさを自覚し、相手との関わり方を問い直す。			
評価 規準	(①知・技) COVID-19の影響で困っている人がいること、相手の好みに応じてテーマや撮影、編集を変えること等の動画の特徴・よさを得ている。 動画についての調査結果や動画の特徴・よさの比較・分類をする思考ツールを使ったり、他者の考えを把握して、その考えを解決方法に生かしたりしている。 (②思・判・表) COVID-19の影響で困っている人についての課題を設定し、必要な情報を収集し、収集した情報や他者の発言等を根拠として解決方法を選び、実践している。 (③主体的態度) COVID-19の影響で困っている人を楽しませることへの関心を高め、取組への意欲や自信をもち、自分と相手との関わり方について変化を感じている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞※太字は「記録に残す評価」
であう	3	○校内の動画発表会の視聴者の感想や、COVID-19の影響についての調査結果を基に、これから取り組みたいことを話し合い、課題をつかむ。 課題：高齢者の人を笑顔にするためには、どうしたらよいだろう	○動画を配信する目的と相手について、動画を見る人の立場に立つ必要性を基に考えられるように、校内の動画発表会の結果を再度提示したり、「地域の人の役に立つ」の視点で考えを整理するマトリクスの用意をしたりする。	◇課題を設定した理由として、地域の中で、よりCOVID-19で困っている人に動画で楽しんでもらう必要があることを記述している。＜ノート③＞
かかわる	2	○単元のゴールイメージについて話し合い、計画を立てる。	○高齢者の方が動画で楽しんでもらった状態を具体的に想定できるように、動画の魅力を整理する「評価する人」と「評価してもらう方法」の視点を提示する。	◇自分たちの動画の特徴・よさを複数、記述したり発言したりしている。＜ノート・発言①＞
	1	○動画の魅力とその発信方法について話し合う。	○動画を配信する内容の案とその根拠について把握できるように、複数の内容の案とその根拠を可視化して整理するマトリクスの用意をする。	◇動画の配信方法やその選び方について、複数の根拠を基に記述したり発言したりしている。＜ノート・発言②＞
	課外	○家族（高齢者）や高齢者施設に動画の好みについての調査を行う。		
	1	○調査の結果を分析する。	○高齢者の好みの傾向を把握できるように、好みを整理し、分類するマトリクスの用意をする。	◇高齢者の好みを分類して記述したり、発言したりしてたりしている。＜ノート・発言②＞
	4	○調査を踏まえた自分たちの動画を作る。	○高齢者に楽しんでもらう動画に向けた班の中での自己貢献度を自覚できるように、振り返りて記述した「友達のがんばり」を相手に伝え合う時間を確保する。	◇役割分担の大切さや自分と友達の役割について前向きな感情を記述している。＜ノート③＞
	2	○他の班からの感想を基に、改善策を話し合う。 (本時2/2)	○友達からの評価を基に改善策を見いだせるように、友達からの評価を整理し、改善策を導くPMNシートの用意をする。	◇動画の改善策について、高齢者が楽しめる等の根拠を明確にして記述している。＜ノート①②③＞
	3	○「高齢者が楽しめる」を視点に動画の修正をする。	○改善策を基に自分たちの動画を修正できるように、「高齢者が楽しめる」の視点を提示し、考えた改善策を見直す機会を設定する。	◇高齢者が楽しめる動画への進捗状況について前向きな感情を記述している。＜ノート③＞
	課外	○家族（高齢者）に動画を見てもらい、感想をもらう。		
	3	○家族（高齢者）の感想を基に、改善策を話し合う。	○「自分たちらしさ」等の新たな角度から改善策を見付けられるように、高齢者の感想と友達からの感想を整理するベン図の用意をする。	◇動画の改善策について、自分たちらしさ等の根拠を明確にして記述したり発言したりしている。＜ノート①②③＞
	5	○「自分たちらしさ」を視点に、動画の修正をする。	○改善策を基に自分たちの動画を修正できるように、「高齢者が楽しめる」「自分たちらしさ」の視点を提示し、考えた改善策を見直す機会を設定する。	◇自分たちらしさを取り入れた動画へ進捗状況について前向きな感情を記述している。＜ノート③＞
・ま 生と かめ する	2	○作成した動画を高齢者施設に送り、見ていただいた感想を基に、これまでの成果について話し合う。	○自分たちの取組の成果を実感できるように、課題を解決した状態の具体図と、動画を見ていただいた感想を提示する。	◇高齢者施設の方に楽しんでもらえた自信や自分たちの班の頑張りを記述している。＜ノート③＞

本時の学習（13／26間目）

ね ら い 他の班からの、自分たちが作った動画への評価（PとM）を基に、改善策（N）を話し合うことを通して、多様な角度から俯瞰的に見た改善策の根拠同士の結び付きに気づき、自分たちの班で取り入れるべき改善策を見いだすことができる。

評価項目 動画の改善策について、根拠を明確にして記述したり発言したりしている。

<ノート・発言②>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・他の班からたくさんのPとMをもらえたな。これを基にして、高齢者の方がより楽しめる動画にするための改善策を班のみんなと考えたいな。（目的意識）	○他の班からの評価（PとM）を知りたいという思いをもてるように、前時の振り返りを読み合うよう促す。 ○他の班からのPとMを基にして動画の改善策を導くという目的意識をもてるように、前時に作成した他の班のPとMが入ったPMNシートをタブレット上で送り合うよう促す。
めあて：他の班からのPとMを基に、自分たちの動画の改善策を見付けよう	
2 個人で改善策を考える。 ・ぼくは、他の班からのPとMを見た時に、M「テンポが速すぎる」を解決すべきだと思うな。高齢者の方は、ストーリー性を好むから、テンポが速いと内容が分からなくなって楽しめないと思うからね。 ・M「テンポが速すぎる」を解決するために、全体のスピードをゆっくりにしたらどうかな。 3 考えた改善策を班で話し合う。 ・友達の黒板アートの合間に「説明のスライドを入れる」は確かに分かりやすいかもしれないな。説明を読んでもらった方がよりストーリーを分かってもらえそうだね。 ・友達の「説明のスライドを入れる」は、Mの「テンポが速すぎる」も解決できるのかな。どういうことだろう。 ・確かに、説明のスライドを入れると一旦止まるから、スピードがゆっくりになりそうだな。ぼくの「全体のスピードをゆっくりにする」は、聞き取りやすくなってストーリーをより分かってもらえるかもしれないけれど、黒板アートとしてのスピード感はなくなってしまうな。 ・でも、字幕が多過ぎるのも、楽しい動画とは言えないと思うな。字はなるべく少なくしつつ分かりやすくすることが大切だと思うな。 ・なるべく字を少なくしつつ、説明用のスライドを入れることで、テンポがゆっくりになったり、説明が分かりやすくなったりできるね。高齢者の方がストーリーを楽しめる動画を作れそうだね。（目的を達成した意識）	○PとMの検討順を決められるように、「課題を解決した状態の具体図」と「高齢者の好みの傾向（児童と教師で作成したもの）」に照らしたPとMの優先順位を問いかける。 ○PとMを基にして改善策を考えられるように、改善策と他の班からのPやMとを線で結ぶよう促す。 ○友達の改善策のよさとその根拠に目を向けられるように、自分が見いだしたNが記述されているPMNシートをタブレット上で送り合うよう促す。 ○それぞれの改善策のつながりに気付けるように、互いの改善策の共通点や相違点を問いかける。 ○優先すべき改善策を考えられるように、班で取り組むべき改善策が書かれた付箋の操作方法を提示する。 ○付箋に書かれた改善策が共通の認識にできるように、自分たちが作った動画を見返し、動画を基に改善策を説明するよう助言する。 ○両立できない改善策があった場合には、自分たちの動画のこだわったことを根拠に改善策を見いだせるように、視点「これまでの動画作りで取り入れてきた工夫」を提示する。 ○自分たちが見いだした改善策が高齢者が楽しめる内容になっていることを確かめられるように、「課題を解決した状態の具体図」と「高齢者の好みの傾向（子どもと教師で作成したもの）」を再度提示する。
4 本時の学習の振り返りをする。 ・たくさんの理由を基に決めたから、納得のいく改善策を考えられたな。この改善策で高齢者の方がより楽しめる動画を作りたいな。	○今後の追究への意欲と自信を高められるように、動画の改善策を見付けられた過程のよさと、そのよさを得られた自分の友達のがんばりを称賛する。

授業の振り返り

※授業の様子は、本校HPでも紹介しています。

【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】

機器	タブレット（1人1台、グループごとに1台）
使用アプリ	ロイロノート
機能など	PMNシート（考えの記述）、送る機能（共有、比較）

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 相撲取りの絵の早描き動画を作成した児童は、ペアの班が前時に作成した評価(良い点Pやもう少し点M)が書かれPMNシートを受け取った。そして、評価を基にN（改善策）を見付けるという目的意識をもった。

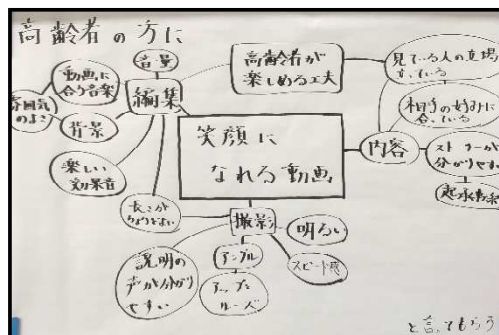
【展開】 児童は、受け取ったPやMの中から単元のゴールイメージに照らし合わせながら、自分が優先したいものを選び、PMNシートのP「字幕があって分かりやすい」や、M「(力士の)説明が少ない」等に丸を付けた。そして選んだPをよりよくしたり、Mを直したりするために、N「力士の説明を増やす」を、タブレット上のPMNシートに記述し、Nと選んだPやMとをつなぎ合わせていった。

個人でPMNシートを書き終えると、

班で取り組むNを決めるために、各自記述したPMNシートをロイロノートの送る機能を用いて班内で互いに送り合った。児童は、送り合ったPMNシートを1枚のカードの中に集約し、互いを比べ合いながら、班の中で、互いの改善策を次のように話し合っていた。

よい！(P)	動画をよりよくする アイデア(N)	もう少し！(M)
音楽と絵があっている		説明(力士の)が少ない
高齢者が分かる絵を描いている		字幕を小さく
動画が揺れていない		動画と効果音が合っていない
字幕があって分かりやすい		場面ごとに分けられていない

<評価が書かれたPMNシート>



<単元のゴールイメージ>

A「主役の相撲取りの説明を入れるという点が同じだね。でも、改善策とつないだPやMが違うよ。理由をよく見てみようよ。」

B「僕は、描いている相撲取りが誰だか分からないから、主役の説明があった方がいいと思ったよ。」

A「たしかに。描いている人が誰だか分かると、相手が知っている人かもしれないし、もっと動画を楽しむことができるということね。」



<個人で改善策を考える様子>



<PMNシートを基に話し合う様子>

以上のように、班のNを見いだしていこうとする姿が見られた要因として、個人で作成したPMNシートにNとその根拠となるPやMがつないであるため、可視化された根拠に目を向けることができたことが考えられる。

振り返りの場面では、「改善策を

基に動画をよりよくしたい」などと次に取り組みたいことを発言したり、記述したりしていた。



<班で改善策を話し合っている際の記述>

○授業改善に向けて

・今回の実践では、PやMを一つの班から受け取っており、情報の質と量が足りない様子が見られた。単元の中で、ICTの大量の情報を瞬時に共有できる点を利用し、多くの班からのPやMを整理する機会を設定する活動を取り入れることが考えられる。そうすることで、PやMの量を確保するとともに、必要とするPやMが精査されていくからである。なお児童が必要とする情報の量や質は、教師があらかじめ想定しておくことが大切である。